

研究課題名：在宅医療患者等における多剤耐性菌の分離率及び分子疫学解析 に関する情報公開

1. 研究の対象

2015年-2016年に以下の施設に入所しておられた入所者等の皆様で、便や尿、咽頭スワブ等の採取に協力していただいた方々。

医療法人社団 芙蓉会

医療法人社団 紺谷医院

医療法人 かがやき

医療法人社団 高德会 高木医院

医療法人社団 光成会 鳥澤医院

医療法人 育寿会・理事長、MIWA 内科胃腸科 CLINIC

北医療生活協同組合 生協わかばの里

愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院

同上 介護老人保健施設あおみ

デイサービス/ショートステイ/在宅介護支援事業所プエトルアズール

住宅型有料老人ホームエステートドゥーブル小牧

2. 研究目的・方法

【研究の目的】

最近、新聞やテレビなどで、「抗生物質が全く効かなくなった多剤耐性菌が病院等で増えている」などとニュースになったりしています。ガンの術後や糖尿病などの治療中で細菌感染症に対する抵抗力が減退した患者さんに、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)やバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの多剤耐性菌が感染し発病すること、さらには、もともと健康な人が簡単な手術の後などにもこれらの菌による感染症を発症することは、以前から問題になっていました。さらに、最近では、これらに加え、多剤耐性アシネトバクターやカルバペネム耐性腸内細菌科細菌などと呼ばれる、**新手の多剤耐性菌**が欧州や米国の病院でも広がり、**海外では大きな問題**となっています。しかし、幸いなことに、現時点では日本では、これらの**新手の多剤耐性菌は未だ少なく**、海外から帰国した患者さんなどから稀に散発的に分離されるのみです。

大学附属病院や公的病院などの拠点病院、基幹病院では、新手の耐性菌も含めていろいろな耐性菌の検査が行われその実態が概ね把握されています。しかし、**多剤耐性菌は人々に感染していても無症状のことも多い**ため、在宅医療を受けておられる患者さんや療養型施設で保健サービスを受けておられる方々に、どの程度、多剤耐性菌が感染しているかはあまり調査されておらず、その実態はよくわかりません。これらを鑑みると、在宅医療サービスや療養型施設で保健サービスを受けておられる方々における多剤耐性菌の感染状況を把握することは、大規模な急性期疾患治療病院での多剤耐性菌による院内感染対策を講じる上で重要な情報となることが期待されるため、**厚生労働省の研究費を得て**本調査研究を実施することになりました。

【研究の方法】

安全な検体採取とプライバシーの保護など

調査にご協力して頂ける方々のみより、便や尿をご提供頂いたり、滅菌した清潔な綿棒で、喉や鼻の粘膜面を軽くこすり、少量の粘液を採取させていただきます。また、床ずれのできている方からは、その箇所の滲出液や膿を滅菌綿棒で採取させていただきます。いずれも、粘膜や肉芽の表面を軽く擦るだけなので、ややむずがゆいことはありますが、検体採取に伴う痛みや出血はありません。便や尿等は肛門管、直腸スワブなどを用いて一部採取させていただきます。

採取された検体から万一多剤耐性菌が分離された場合、その菌株を保存し、研究に利用させていただきます。ただし、協力して頂いた方のプライバシーを守るため、検体がどの方由来する物かは全く分からないようにして扱います。したがって、調査に協力して頂いた方々には、検査結果はお伝えできません。また、この調査研究にご協力して頂いた方々に対し謝礼金等の支払いはありません。

I 調査研究への協力辞退の自由

いったんこの調査研究への協力で同意された場合も、あとで気が変わった場合、協力の辞退をして頂くことは可能です。辞退により、在宅医療サービスや提供を受ける保健サービス等の質的低下などは発生しません。しかし、検体が採取され、それがどの方由来する物なのかが分からないよう処理（連結不可能匿名化処理）した後は、辞退して頂くことはできなくなります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

便や尿、咽頭スワブ、褥瘡膿、急性期医療機関への入院歴、抗菌薬投与歴

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学・耐性菌制御学分野

荒川宜親

電話：052-744-2481

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学・耐性菌制御学分野

荒川宜親